

尾瀬携帯電話等の利用状況説明

2017年9月/10月調査結果報告

①調査概要 (P1～3)

- ・ 時期：2017年9月17日 10月8日
- ・ 場所：山ノ鼻地区・龍宮地区・見晴地区の3カ所にて実施
- ・ 方法：山小屋利用客、従業員にアンケート用紙での調査
山小屋周辺での観察調査及びヒアリング調査

②調査にて明らかになった問題点等 (P12～28)

- ・ マナーの問題との意見が多い
着信音や通話音、間近で使われた、歩きスマホ等

③関係者より指摘のあった懸念点

- ・ 通話可能範囲が尾瀬ヶ原まで広がっているのではないかと?

④…②③の対応について

- ・ 2018年度及び2019年度も利用状況の調査時にマナー啓発を行う
アンケートを実施する際に配布するノベルティに歩きスマホ禁止等の表示
及び調査員から「マナーを守りましょうと」一言声をかける等。
尾瀬で携帯が使えるとPR予定のポスターに歩きスマホ禁止等の表示を行う。
(配布予定先 公共交通機関/尾瀬周辺の宿泊施設等)
- ・ 通話可能範囲の確認 今年度サービス開始後(6月頃)に関係者に立会い頂き通話
範囲の確認を行う



あたらしい自由。

The au logo consists of the lowercase letters "au" in a stylized, orange, cursive script font.

尾瀬国立公園内での携帯端末の利用に関するアンケート結果

関東地方環境事務所

1 アンケート実施概要

- (1) 目的：平成 29 年秋より一般利用者向けの通信環境が整備され、尾瀬国立公園内の山ノ鼻及び尾瀬沼地域の山小屋内及びその周辺で携帯端末の通信が可能となった。このような変化を受け、環境省にて携帯端末の利用実態や問題を把握する調査を実施した。
- (2) 日程：9 月 20 日より、尾瀬国立公園の全山小屋内における携帯電話のエリア化が順次開始されたことを受け、運用開始の 2 週間後に調査を実施した。
◆調査日：平成 29 年 10 月 7 日（土）・8 日（日）※鳩待峠、大清水
10 月 8 日（日）・9 日（月）※御池、沼山峠
※調査時間帯は、登山口での下山者を対象としたことから、9:00～16:00 とした。
- (3) 実施場所：群馬県側の登山口「鳩待峠」、「大清水」（本調査）
福島県側の登山口「御池」、「沼山峠」（追加調査）
- (4) 実施場所：アンケート調査に際しては、登山口で下山客に声をかけて、協力の意向のある方を対象に実施した。また、入山客に関しても、問い合わせがあった際は、下山の際に協力いただきたい旨を伝え、取得数の向上を図った。
- (5) 設問：携帯端末の利用状況を把握するため、下表のとおり設問を設定した。

表 1 調査票の項目

設問番号	設問内容
問 1 (旅行概要)	・入下山口名称 ・入下山口出発／到着（予定）時刻 ・旅程 ・宿泊場所 ・来訪目的 ・コース、主な目的地、自動車利用者の利用駐車場（地図形式記入）
問 2	・携帯端末のエリア化※の認知度 ・認知した媒体（SQ 認知者）
問 3	・登山中の携帯端末の利用の有無 ・利用した目的と利用箇所（SQ 利用者） ・携帯端末使用時のトラブルの有無（利用者・未利用者対象）
問 4	・登山時の携帯端末の使用についての考え方
問 5	・性別・年齢 ・住所（都道府県） ・交通手段 ・同行者の間柄、人数 ・尾瀬への来訪回数 ・登山歴 ・登山頻度
問 6	・尾瀬国立公園内の携帯端末の利用に関する意見、要望等（自由記入）

(6) 目標有効回答サンプル数：本調査で 150 票程度の回収を目標とした。

(7) 回答結果：本調査、追加調査を合わせて、合計 220 票回収した。

表 2 アンケート回収結果

調査場所／日程	10/7（土）	10/8（土）	10/9（日）	合計
鳩待峠（本調査）	53	79	—	132
大清水（本調査）	18	53	—	71
御池・沼山峠 （追加調査）	—	7	10	17
合計	71	139	10	220



2 アンケート集計結果

(1) 回答者のプロフィール

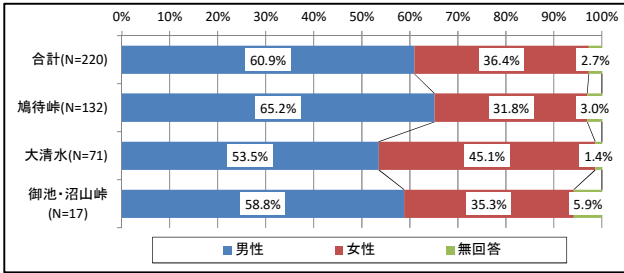


図 1 性別構成

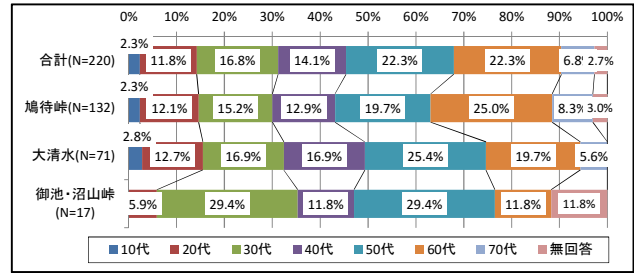


図 2 年齢構成

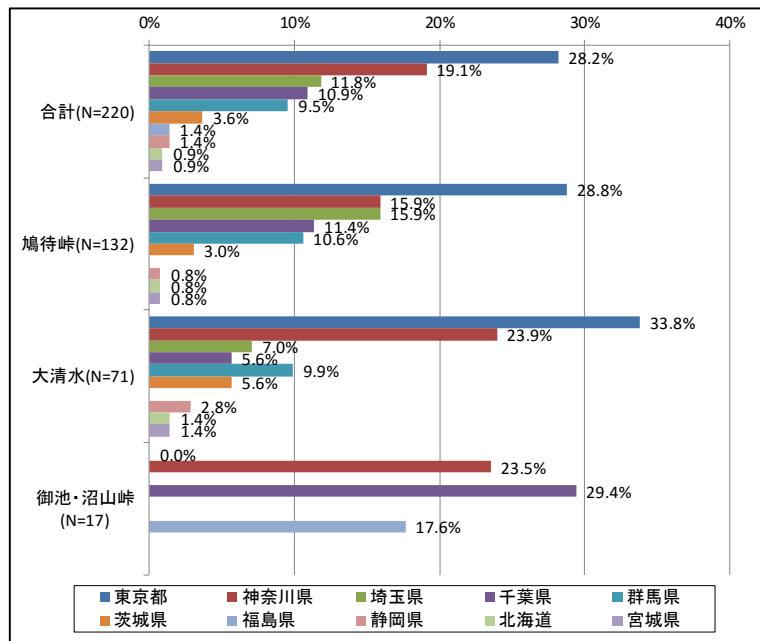


図 3 居住地(上位10都府県)

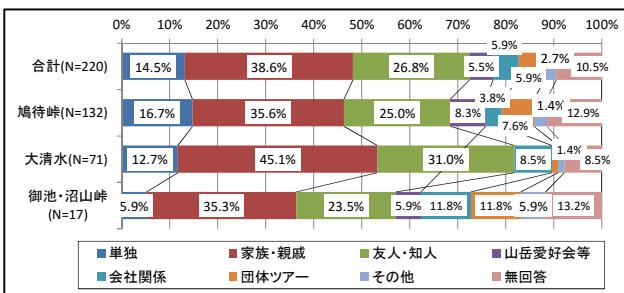


図 4 同行者の構成

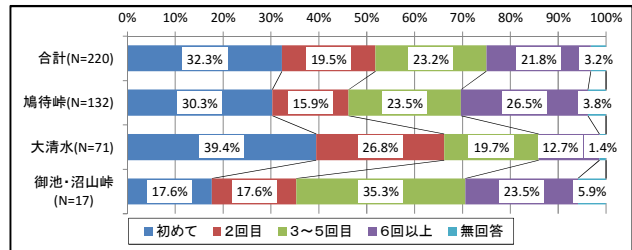


図 5 尾瀬への来訪回数

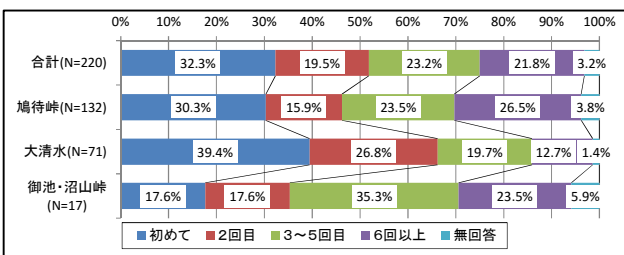


図 6 登山歴



図 7 登山頻度

(2) 旅行概要 (問 1)

① 入山日 (下山者対象) (図 8)

- アンケート対象者に占める入山日は、当日が 5 割強を占め、前日の入山が 4 割弱みられる。
- 御池・沼山峠では、「前日」の入山が 9 割近くを占めている。

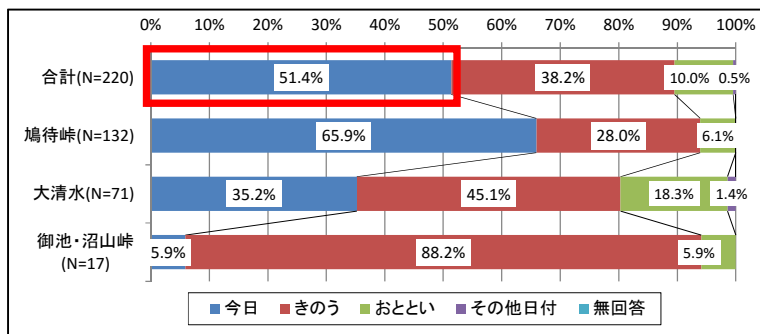


図 8 入山日

② 来訪目的 (複数回答可) (図 9)

- 「ハイキング・トレッキング」が 7 割強で最も多く、次いで「登山」、「風景を見る」と続く。
- 鳩待峠・大清水では、「登山」の割合が 25%程度に対し、御池・沼山峠では 5 割強となっている。
- 「写真撮影」が鳩待峠では 14.4% に対し、大清水では 1.4%、御池・沼山峠では 5.9%となっている。

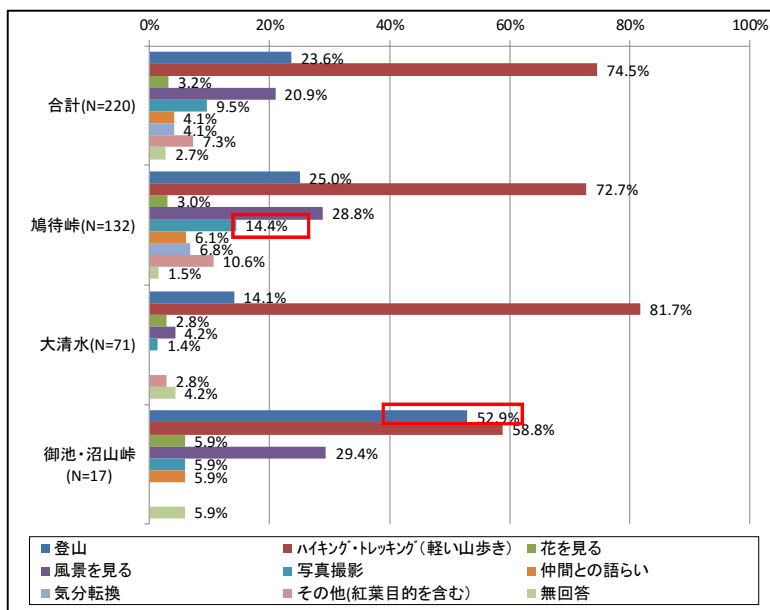


図 9 来訪目的

(3) 全山小屋内における携帯端末のエリア化について (問 2)

① サービスについての認知 (図 10)

- 「知らなかった」が約 7 割を占め、「知っていた」を大きく上回る。

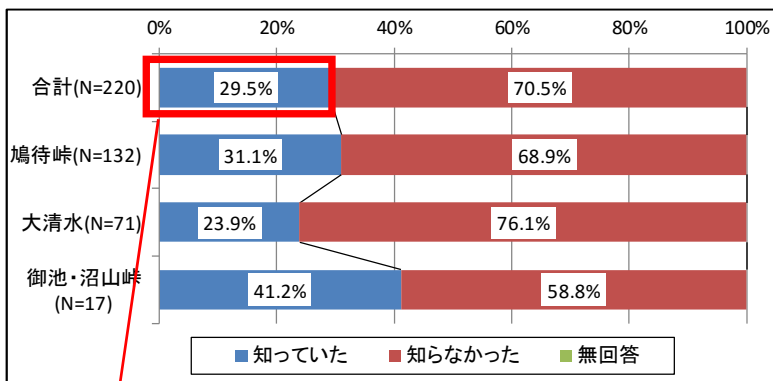


図 10 サービスについての認知度

② 認知媒体 (図 11)

- 「現地 (山小屋)」が 4 割で最も多いほか、「その他」も 3 割強を示す。
- 「御池・沼山峠」では「現地 (山小屋)」が 7 割強を占めている。

<その他の一例>

- ニュースで知った、新聞で見た、テレビで見た、以前から知っていた など

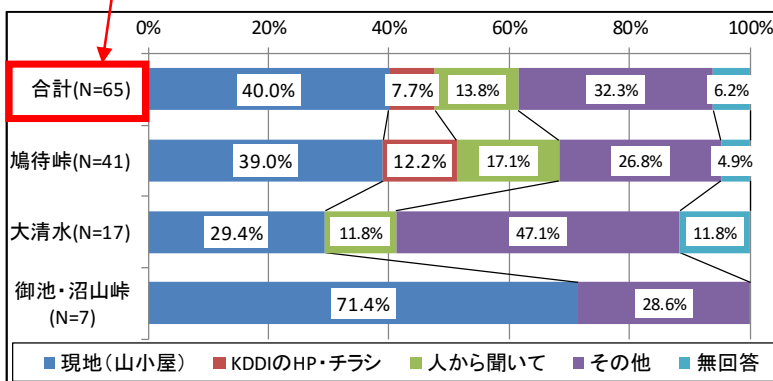
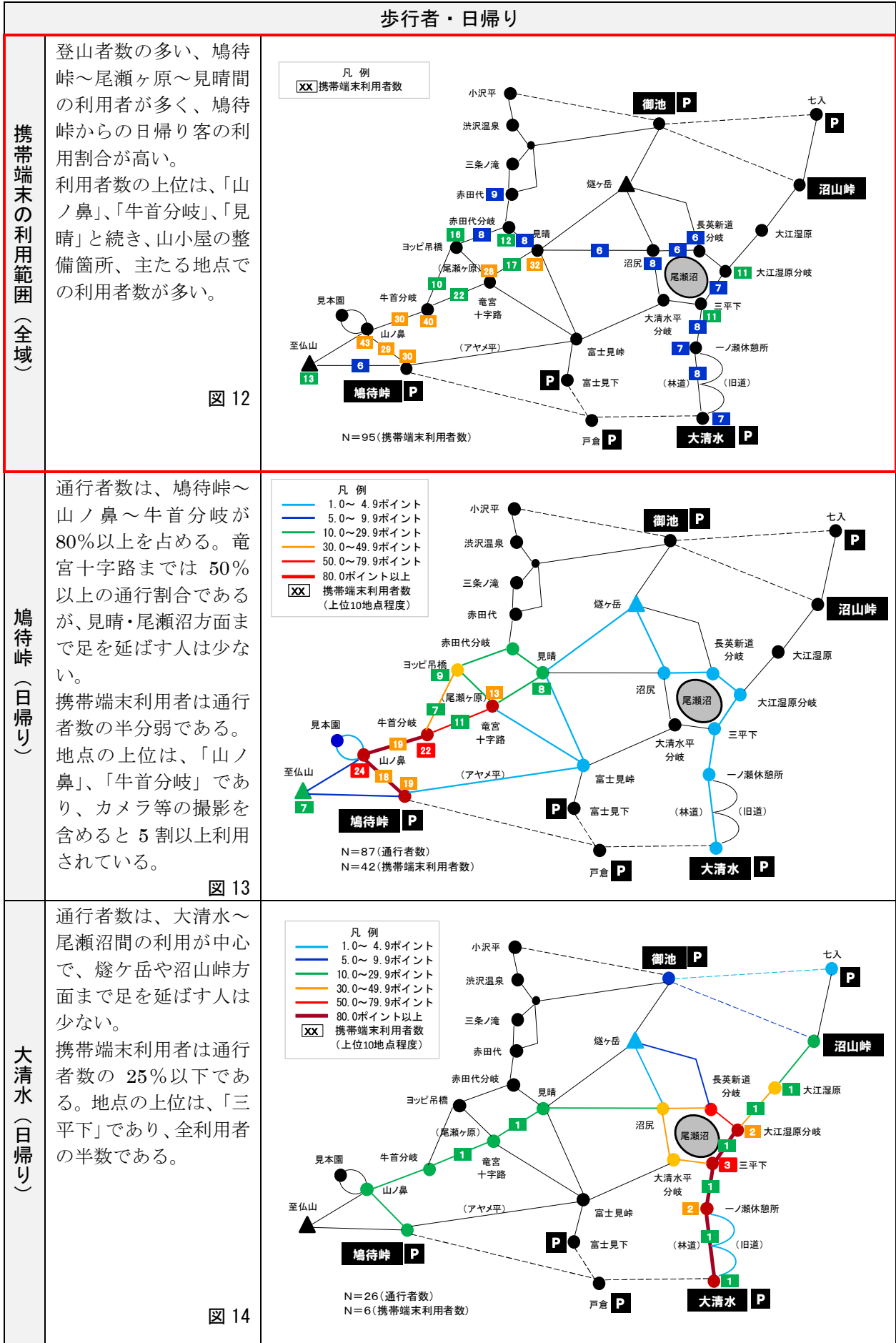
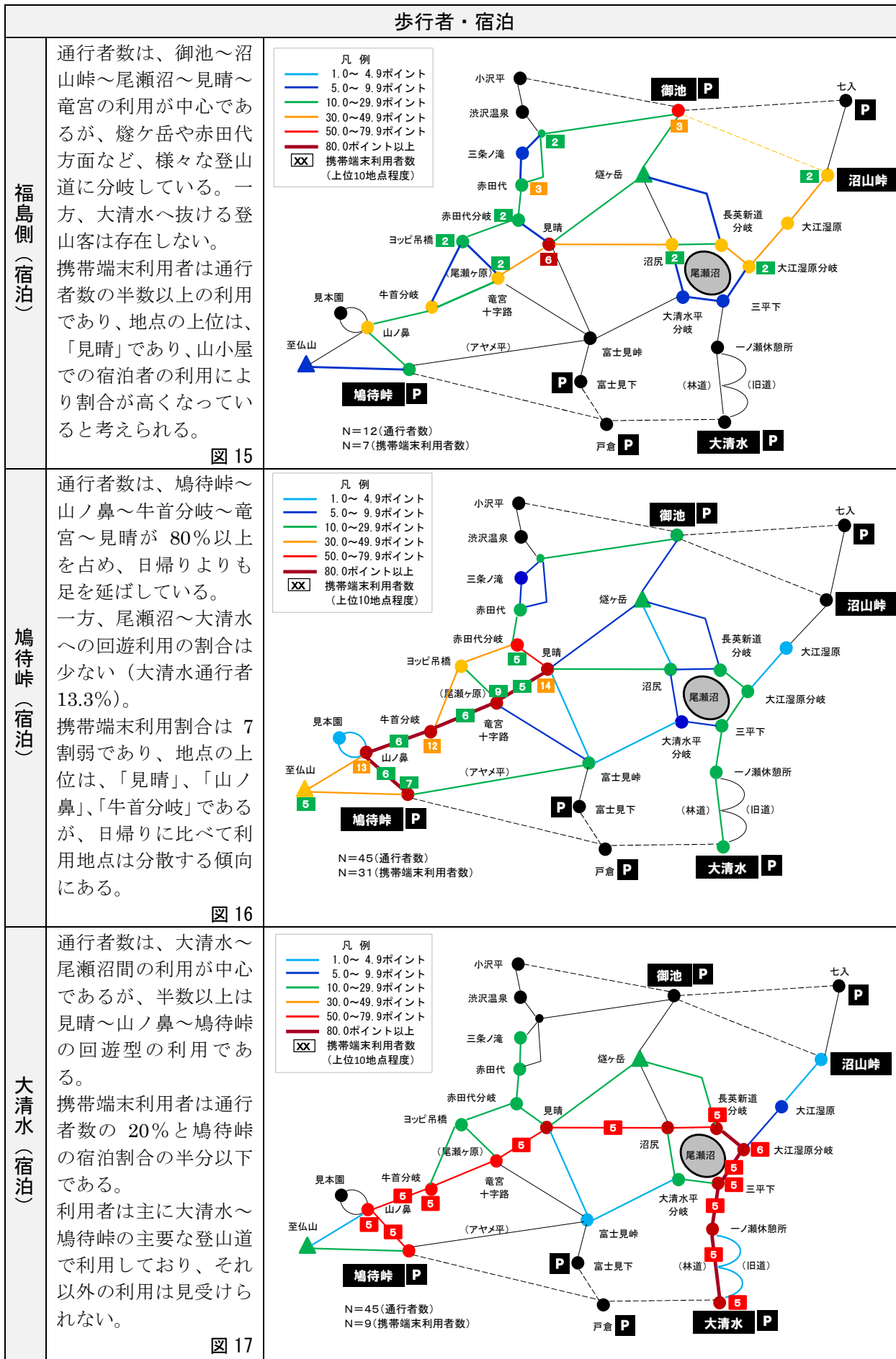


図 11 サービスについての認知媒体

<携帯端末の利用範囲（上）、登山口別の日帰りルート及び携帯端末の利用地点（中・下）>



<登山口別の宿泊ルート及び携帯端末の利用地点>



(4) 尾瀬国立公園（園地外）の携帯端末の使用状況（問3）

① 携帯端末の使用

(図 18・19・20)

- ・「使用した」が 67.7%と、3 グループに 2 グループが使用している。
- ・地点別では、「鳩待峠」の割合が高くなっている。

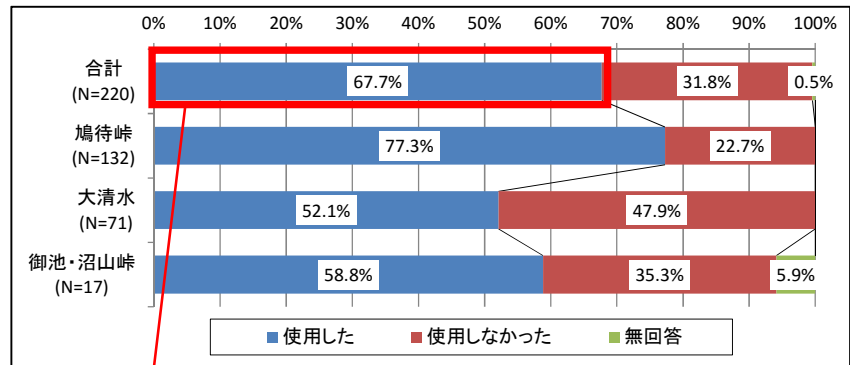


図 18 携帯端末の使用

- ・携帯端末の使用目的として、「通信無し」の利用が 9 割弱を占める。
- ・「通信あり」の機能の利用は全体の 34.7%であり、「全山小屋内における携帯端末のエリア化の認知度」より高くなっている。
- ・地点別では、大清水では「通信あり」の機能の利用率が他の地点より低くなっている。

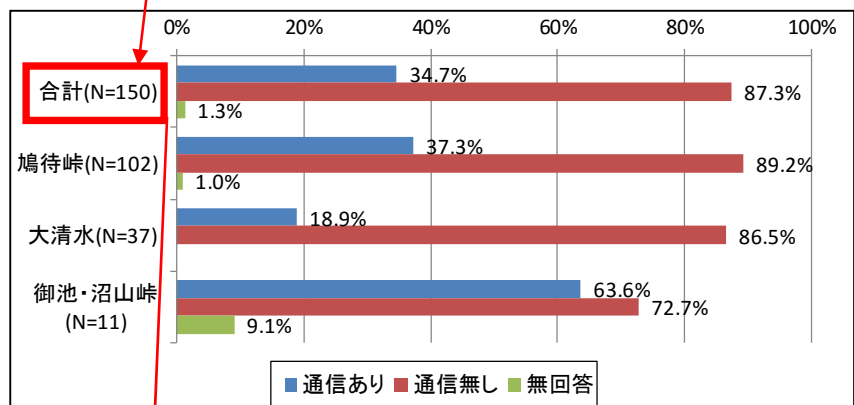


図 19 携帯端末の使用目的（通信の有無）

- ・全山小屋内における携帯端末のエリア化の認知度別の携帯端末の使用目的では、認知者は 5 割近くが「通信あり」の機能を利用しているのに対し、知らない回答者は 3 割弱の利用に留まっている。
- ・一方、「通信なし」の機能の利用者は、それぞれ 8 割を超え、知らない回答者の利用割合の方が高い

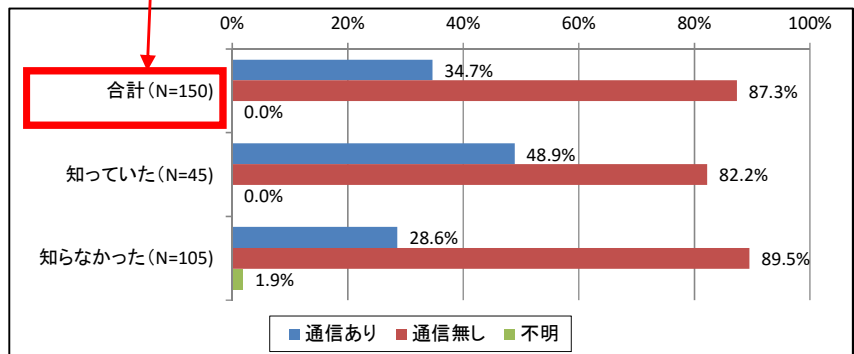
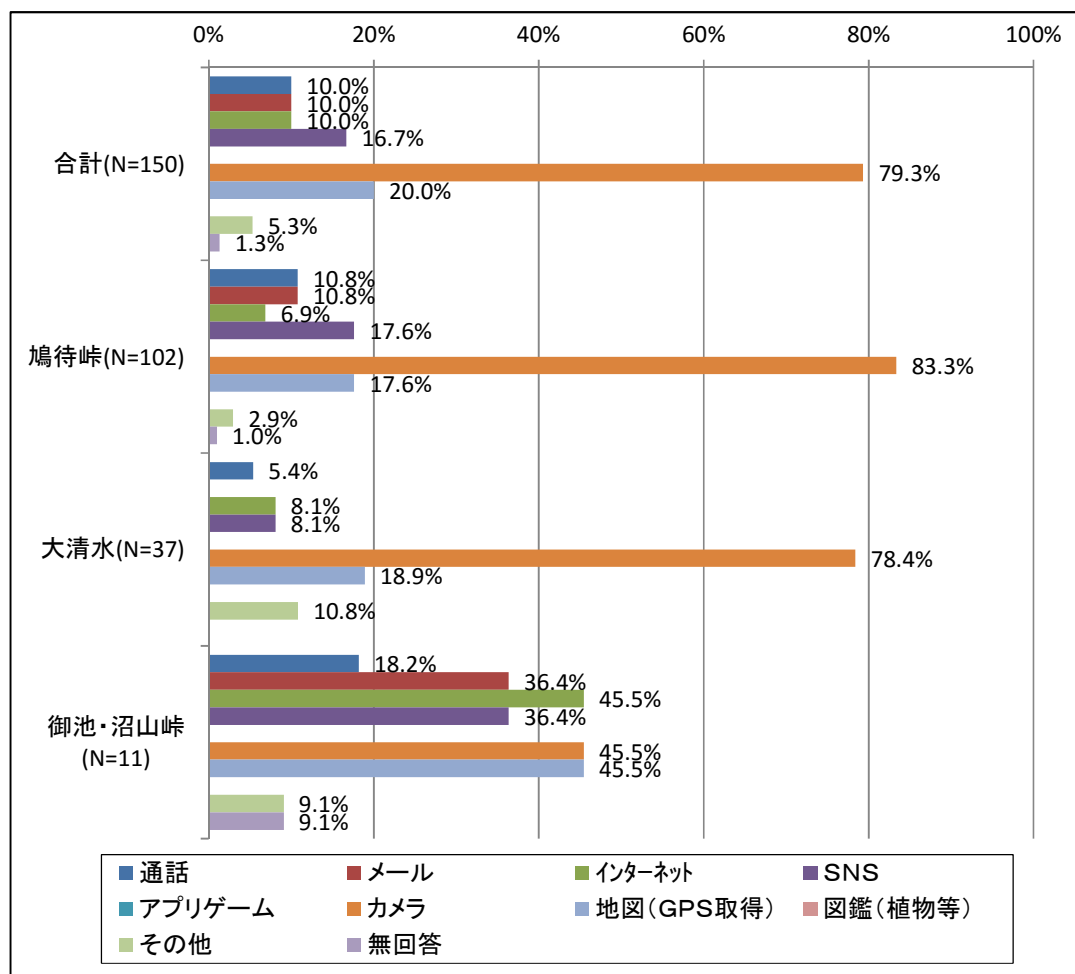


図 20 全山小屋内における携帯端末のエリア化の認知度別の利用割合

- ・今後は、携帯端末のエリア化のサービスの認知度が高まるにつれ、「通信機能」の利用割合が高くなることが想定される。

- ・また、携帯端末の使用目的（詳細）では、「カメラ」の利用が 8 割弱を占める。次いで、「地図」（20.0%）、「SNS」（16.7%）と続く。



図・表 21 携帯端末の使用目的（詳細）

利用したい機能	具体の理由（一例）
通話	<ul style="list-style-type: none"> ・山小屋で通話、仕事の連絡、家族との連絡、電波の入る限りで定時連絡 ・紅葉情報を伝えるため、友人との会話を楽しんだ
メール	<ul style="list-style-type: none"> ・山小屋でメールを使用、家族にメールするため ・ショートメールは送れたが、添付動画は送れなかった ・メールは受信のみで利用
インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のニュース、気象状況の収集 ・時刻表等の確認、家族に連絡するため、動画を見る
SNS	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE 利用（家族への連絡、山頂での発信、写真の送信など） ・Facebook での写真掲載
カメラ	<ul style="list-style-type: none"> ・風景撮影、紅葉の撮影、花の撮影、各ポイントでの撮影
地図（GPS 取得）	<ul style="list-style-type: none"> ・位置確認、ルート確認、地図アプリの利用、 ・ヤマレコ、「ジオグラフィカ」位置情報ソフトの利用
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・時間確認（時計機能）、メモ記録、ライトとして利用

② 携帯端末使用時のトラブル (図 22、図・表 23)

- ・「ない」が 82.6% を占め、携帯端末使用時のトラブルは少ない。
- ・「ある」は 1.8% に対し、「見かけたことがある」は 10.5% であり、回答者自身では体験してないものの、1 割近くでトラブルを見かけたことがある。

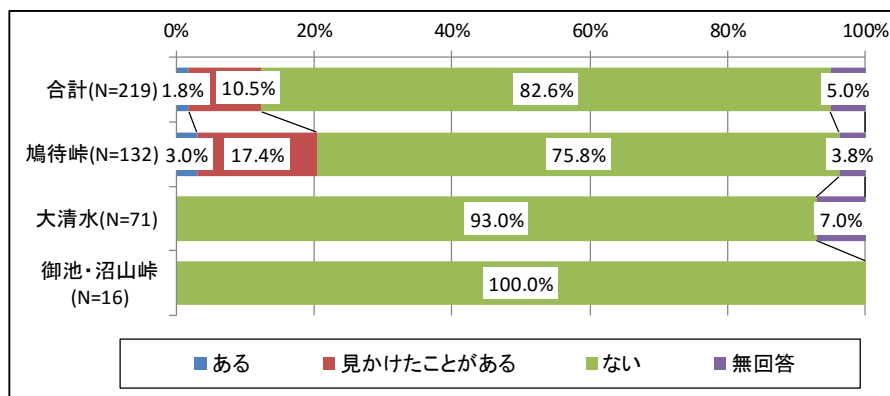
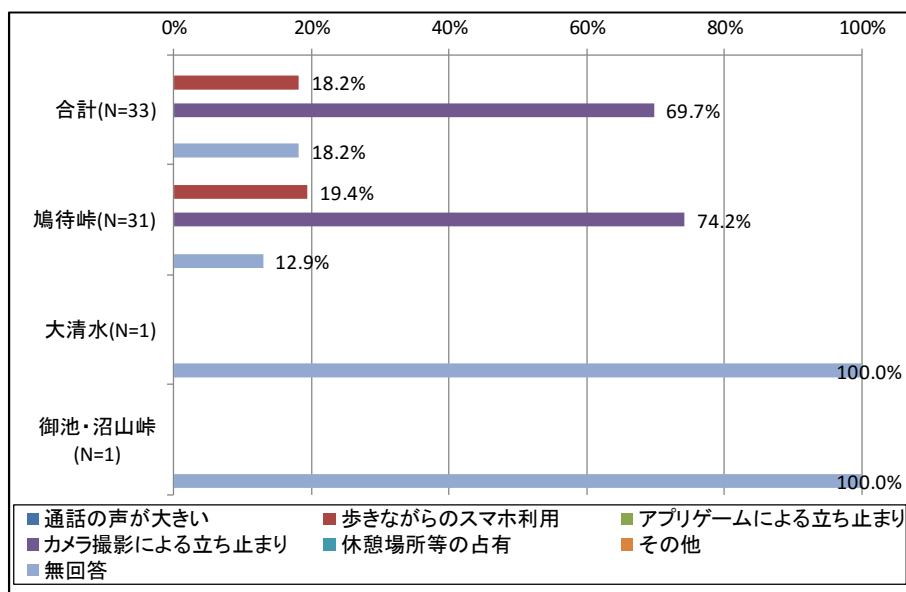


図 22 携帯端末使用時の登山客とのトラブル (使用した・していない全数)

- ・携帯端末使用時のトラブルの内容として、「カメラ撮影による立ち止まり」が 69.7% と高い。
- ・次いで、「歩きながらのスマホ利用」(18.2%) であり、トラブルの内容は上述の 2 項目のみである。
- ・トラブルの具体的内容は以下の通りである。



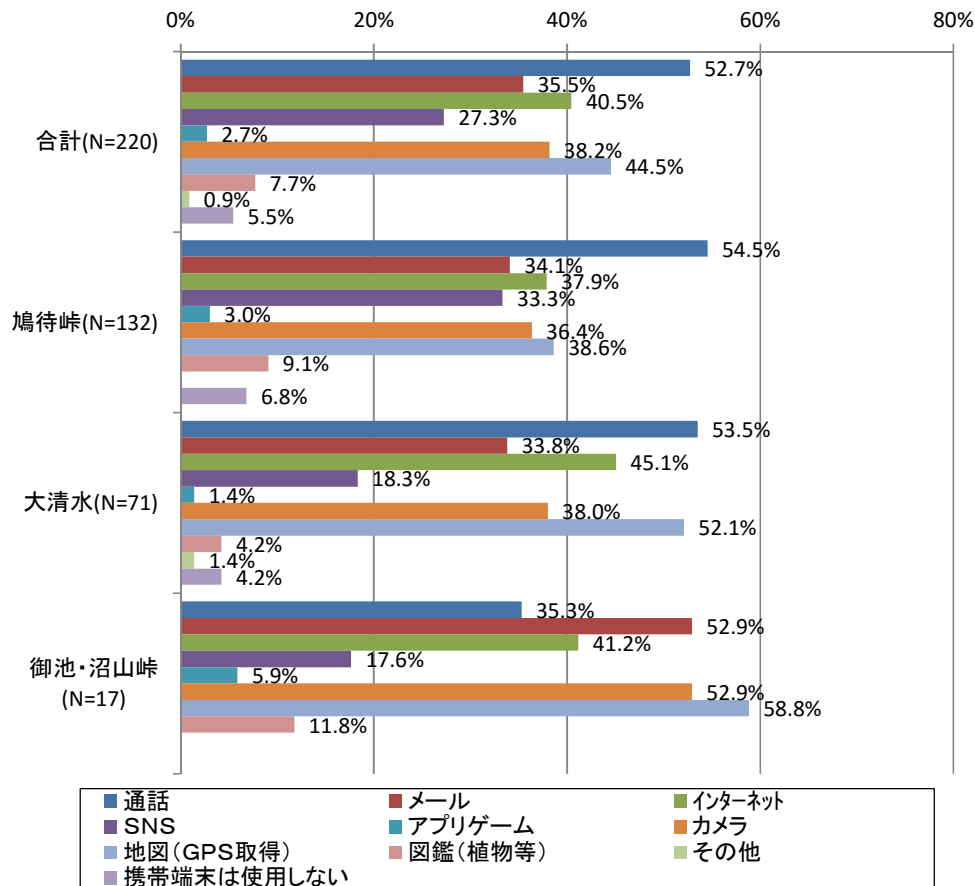
図・表 23 携帯端末使用時のトラブルの内容 (一部自由意見から抜粋)

項目	具体のトラブル内容
カメラ撮影	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影中に注意された、早く動いてと言われた ・撮影に夢中で道をふさいでいた ・道をふさいでいた、人が通れなくなっていた、撮影者が多く渋滞箇所があった ・若い子が写真撮影して動かない。歩きながら使う。
スマホ利用	<ul style="list-style-type: none"> ・木道から足を踏み外した、木道から落ちた人がいた ・下りでの歩きながらのスマホ利用で危なかった (外国人)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場で携帯の目覚まし (アラーム) が鳴る、マナーの問題だが、夜中に何度も起こされた。 ・キャンプ場で、大声で話している人 (通話している人) がいる。今でも時々、隣のテントから目覚ましが聞こえ、うるさく思うことがある。 ・右側歩行を守らない。尾瀬は個人客が多いので、ルール・マナーの徹底を。

(5) 尾瀬国立公園全域を含めた登山時の携帯端末の使用について (問 4)

① 利用したい機能 (図・表 24)

- ・「通話」が 5 割強を占め、次いで「地図 (GPS 取得)」、「インターネット」、「図鑑 (植物等)」と続く。
- ・「SNS」の回答は、鳩待峠で 33.3%に対し、大清水 18.3%、御池・沼山峠 17.6%と鳩待峠の半分程度の回答である。鳩待峠利用者の年齢や登山歴、登山ルートにより割合が高くなったことが想定される。



図・表 24 利用したい機能 (複数回答)

利用したい機能	具体の理由 (一例)
通話	・緊急時の連絡、家族への緊急連絡、安否確認、小屋への連絡 ・感動を早く伝えたい、情報伝達 (見どころ)、仕事先への連絡
メール	・安否確認、家族との緊急連絡用、友人等への安否連絡 ・写真の送付、リアルタイムの写真送信、感動を早く伝えたい
インターネット	・情報の入手、天気の確認、動植物・昆虫を調べる、尾瀬に関する調べもの ・宿への予約、帰りの予約 (席)、YouTube を見る
SNS	・LINEによる安否確認、緊急連絡、仕事での利用 ・リアルタイムの画像送信、投稿、Facebook、instagram への掲載
アプリゲーム	・自然の中でくつろぎながらゲームしたい、尾瀬のアプリがあればよい
カメラ	・安否確認、風景・自然の撮影、風景の発信
地図 (GPS取得)	・地図の確認、GPSによる位置情報確認、位置ごとの花の名前の整理
図鑑 (植物等)	・現地で見つけた植物のチェック、植物・草花のチェック
その他	・翻訳アプリは外国人向けに利用価値が高い
携帯端末は使用しない	・山に来たら非日常を味わいたい、このような観光地での携帯利用は十分慎重に、利用が可能になると、わがままな利用が増えてくる。

3 アンケート結果のまとめ

これまで整理してきたアンケート結果を踏まえ、主に尾瀬国立公園における携帯端末の利用実態の把握及び検証を行うと次のような点が指摘できる。

■携帯端末の使用について

- ・携帯端末の利用者は、67.7%と 3 グループに 2 グループが使用していた。「通信あり（通話・メール等）」、「通信無し（カメラ、地図（GPS）等）」別では、「通信無し」の利用が 9 割弱を占めており、全回答者の 6 割程度が携帯端末の通信無しの機能を使用していた。
- ・一方、「通信あり（通話・メール等）」機能の利用は全体の 34.7%であり、「全山小屋内における携帯端末のエリア化の認知度（29.5%）」より高くなっている。エリア化される前から、一部の区間では通信が可能であったこと、認知せずに通信ができることに気づいて利用したことなどの理由により、認知度より高くなったことが想定される。
- ・利用割合は、福島側（宿泊）、鳩待峠（宿泊）の割合が高く 5 割以上であり、利用地点は主に山ノ鼻～牛首～竜宮～見晴間の山小屋周辺や分岐点である。一方、大清水からの登山客の利用割合は低い。
- ・全山小屋内における携帯端末のエリア化の認知別における携帯端末の使用目的では、エリア化の認知者の 5 割近くが「通信あり」の機能を利用しているのに対し、知らない回答者は 3 割弱の利用に留まっている。
- ・一方、「通信なし」の機能の利用者はそれぞれ 8 割を超え、知らない回答者の利用割合の方が高い。そのため、携帯端末の使用割合には、認知の有無は起因していない。
- ・以上から、全山小屋内における携帯端末のエリア化は、アンケート調査の数ヶ月前から始められたサービスであり、今後認知度が高まるにつれて、「通信あり」の利用割合が高まることが想定される。

■利用したい機能について（携帯端末の通信が可能な場合）

- ・「通話」が 5 割強を占め、次いで「地図」、「インターネット」、「図鑑」と続く。「SNS」の回答は、鳩待峠で 33.3%に対し、大清水 18.3%、御池・沼山峠 17.6%と鳩待峠の半分程度の回答である。鳩待峠利用者の年齢や登山歴、登山ルートにより割合が高まったことが想定される。
- ・現状では、「通信あり」の機能の利用割合は、通話・メール・インターネットともに 10.0%の利用割合であったことから、今後通信が可能になった場合、「通話」や「インターネット」等の通信ありの機能の利用者が大幅に増加するものと考えられる。
- ・「通話」機能の利用理由は、「緊急時の連絡、家族への緊急連絡、安否確認」などが上げられる。

■携帯端末使用時のトラブルについて

- ・「ない」が 82.6%を占め、携帯端末使用時のトラブルは現状では少ない。一方、「ある」は 1.8%に対し、「見かけたことがある」は 10.5%であり、1 割近くでトラブルを見かけたことがある。
- ・携帯端末使用時のトラブルの内容として、「カメラ撮影による立ち止まり」が 69.7%と高く、現状の使用目的の割合に起因するものである。
- ・また、携帯端末使用時以外のトラブルとして、「キャンプ場で携帯の目覚まし（アラーム）が鳴る」、「キャンプ場で、大声で話している人（通話している人）」など、音や通話に関するものが上げられる。今後、一般利用者向けの通信環境の認知度が高まり、「通話」機能の利用者が増えるにつれ、現状より音や通話でのトラブルが多くなることが懸念される。

以上を踏まえ、一般利用者向けの通信環境が整備されることで、通話機能の利用が高まり、緊急時の

連絡等、安否確認などで使用でき、安全面が高まることが期待される。一方、山小屋等での通話利用により、トラブルになることも考えられることから、登山客のマナーを向上させるための取組み（パンフレット、案内看板等による周知など）の実施などが求められる。

<参考：アンケート調査票>

尾瀬国立公園内での携帯端末の利用に関するアンケート

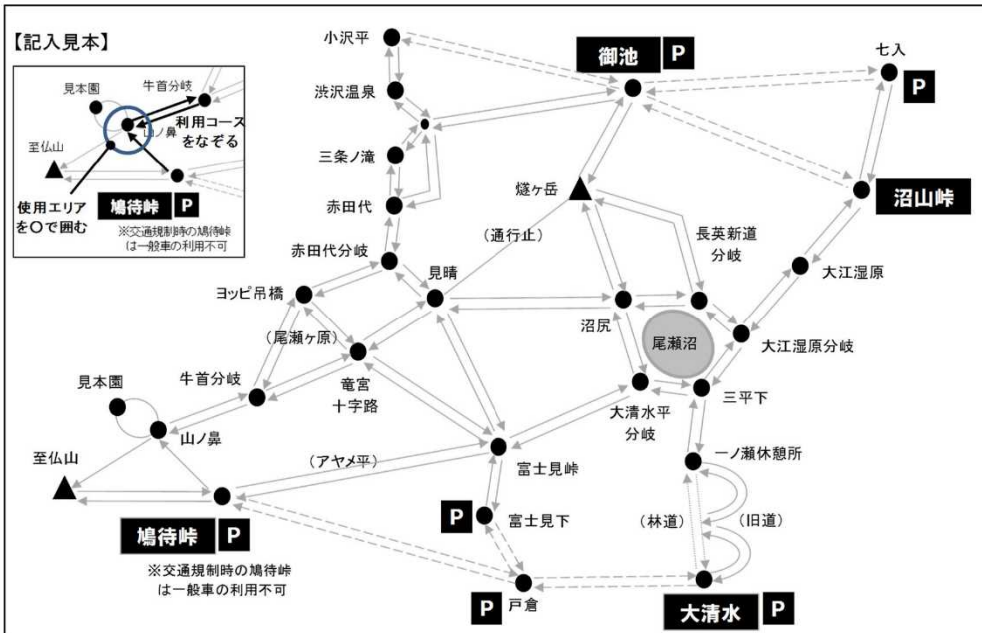
平成 29 年秋より一般利用者向けの通信環境※が整備され、尾瀬国立公園内の山ノ鼻及び尾瀬沼地域の山小屋内及びその周辺で携帯端末の通信が可能となりました。このような変化を受け、環境省では携帯端末の利用実態や問題を把握する調査を行っています。快適な国立公園とするため、どうか率直なご意見をお聞きかせください。

環境省 片品自然保護官事務所[担当：庄司^{しょうじ}]（業務請負者：中央開発株式会社[担当：成瀬^{なるせ}・飯塚^{いづか}]

問1 今回の山旅のコースについておうかがいします。（特記ない場合は1つに○、または数字等記入）

- 入山日・時刻 [1. 今日 2. きのう 3. おととい 4. ____ 日] の [午前・午後 ____ 時 ____ 分頃]
- 下山(予定)日・時刻 [1. 今日 2. あした 3. あさって 4. ____ 日] の [午前・午後 ____ 時 ____ 分頃]
- 尾瀬以外も含む旅程 [1. 日帰り又は夜行日帰り 2. 宿泊 (____ 泊 ____ 日、うち尾瀬内に ____ 泊)]

- 宿泊場所 (複数回答可)
 - 1. 尾瀬内の山小屋・キャンプ場 (地名等→)
 - 2. 山麓(片品・檜枝岐)の宿泊施設
 - 3. 他の観光地 (地名等→)
- 来訪目的 (複数回答可)
 - 1. 登山 2. ハイキング・トレッキング(軽い山歩き) 3. 花を見る 4. 風景を見る
 - 5. 写真撮影 6. 仲間との語らい 7. 気分転換 8. その他 ()
- 利用コース
使用エリア (携帯)



問2 尾瀬国立公園の全山小屋内における携帯端末のエリア化※についておうかがいします。

※今年の秋から KDDI が、尾瀬国立公園内で携帯端末及び公衆無線 LAN (Wi-Fi) サービスの提供を開始しています (別紙参照)

- サービスについてご存じでしたか? [1. 知っていた 2. 知らなかった]
- 何で知りましたか? [1. 現地(山小屋) 2. KDDI の HP・チラシ 3. 人から聞いて 4. その他()]

問3 尾瀬国立公園(園地外)の携帯端末の使用についておうかがいします。

- 登山中に携帯端末を使用しましたか? [1. 使用した 2. 使用しなかった(裏面)]
- どのような目的で使用しましたか(複数回答可)。また、どこで使用しましたか(使用エリアを○で囲む)

- 【通信あり】 1. 通話 2. メール 3. インターネット 4. SNS※ 5. アプリゲーム
- 【通信無し】 6. カメラ 7. 地図(GPS 取得) 8. 図鑑(植物等) 9. その他 具体的な理由

●携帯端末使用時に周囲の登山客とトラブルになったことがありますか。

〔 1. ある 2. 見かけたことがある 3. ない〕

●使用時にどのようなトラブルがありましたか（みかけましたか）（複数回答可）。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 通話の音が大きい | 2. 歩きながらのスマホ利用 |
| 3. アプリゲームによる立ち止まり | 4. カメラ撮影による立ち止まり |
| 5. 休憩場所等の占有 | 6. その他 |

具体的な内容

●問3で携帯端末を「使用しなかった」方へお聞きします。携帯端末の使用者とトラブルになったことがありますか

〔 1. ある 2. 見かけたことがある 3. ない〕

●携帯端末の使用者とどのようなトラブルがありましたか（みかけましたか）（複数回答可）。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 通話の音が大きい | 2. 歩きながらのスマホ利用 |
| 3. アプリゲームによる立ち止まり | 4. カメラ撮影による立ち止まり |
| 5. 休憩場所等の占有 | 6. その他 |

具体的な内容

問4 尾瀬国立公園全域を含めた登山時の携帯端末の使用についておうかがいします。

●携帯端末での通信が可能な場合、登山中にどのような機能を利用したいですか（複数回答可）。

- | | | | | |
|--------|----------------|------------|---------|-----------|
| 1. 通話 | 2. メール | 3. インターネット | 4. SNS※ | 5. アプリゲーム |
| 6. カメラ | 7. 地図（GPS取得） | 8. 図鑑（植物等） | | |
| 9. その他 | 10. 携帯端末は使用しない | | | |

具体的な理由

問5 あなた（およびあなたの同行者）についておうかがいします。

●性別〔1.男性 2.女性〕 ●年齢〔 歳代（10歳単位で）〕 ●住所〔 都・道・府・県〕

●同行のお仲間の間柄・人数 → ●人数（ご本人を含めて）〔約 人〕

〔 1. 単独 2. 家族・親戚 3. 友人・知人 4. 山岳愛好会等 5. 会社関係 6. 団体ツアー 7. その他（ ） 〕

●尾瀬への来訪回数〔 1. 初めて 2. 2回目 3. 3～5回目 4. 6回以上 〕

●登山歴〔 1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～4年 4. 5～9年 5. 10年以上 〕

●登山頻度〔 1. 初めて・以前やったことがある 2. 年に1回程度 3. 2～3ヶ月に1回
4. 1～2ヶ月に1回 5. 1ヶ月に1回程度 6. ほぼ毎週のように行く〕

問6 尾瀬国立公園内での携帯端末の利用に関して、ご意見、お考えをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。気をつけてお帰りください。

場所：鳩待峠・大清水 日時：__月__日（ ） AM・PM__時頃 調査員名：